

北岡一家の 稲刈り模様



「そろそろかねえ」と天気を気にしながら稲刈り準備に村がそわそわとしていた10月はじめ。相名地区の北岡さん家の稲刈り模様を覗かせてもらいました。昔に比べると機械でできる仕事も増えましたが、それでもやはり人手はいる稲刈り作業、街から娘も帰り、一家で朝からバリバリと取り掛かります。すばらしいのは言葉を交わさずとも、互いに先回りをして流れるような作業をしていく北岡夫婦のあうんの呼吸。それを見ながら必死に娘も手伝います。村人も驚きますが、なるほどこうして農を通して言葉のないコミュニケーションが育まれるのか、とどこか納得と憧れを得た稲刈り模様でした。

村の光景



散歩をすると思いがけない光景に出会うこともしばしば。今日は忍者のように塀に上がって何やら作業をしているノボルちゃんがおりました。「ちよっと壁が古うなってますよってねえ」何でも自分で直してしまうノボルちゃんは80歳を超えても、その身軽さが衰えることなく、壁をスイスイと塗りなおしていきます。自分でできることは自分でする、がモットーの馬路村。何にも無い村だからこそ、何かに頼らない力がしみついており、それを見る度、頼りない若者は惚れ惚れと見入っています。ノボルちゃんの背中では日本一、です。

うまいとら新聞

令和3年秋冬
発行
馬路村農協



「とりゆうかよー」と挨拶が響くゆずの集荷場。馬路村は一年の中でも最も忙しく、活気づくゆずの季節を迎えております。この季節は一九〇戸のゆず農家と農協の言わば共同作業。農家が朝から晩まで汗をかきながら収穫したゆずを軽トラに載せて、ゴトゴトと集荷場に運んできます。毎日大量に運ばれてくるゆずを農協が集荷場横の搾汁場ですぐさま搾って、果汁や皮、種など分ける一次加工がはじまります。ゆずの香りは鮮度が命のため、収穫から加工までなるだけ時間を空けないのがポイントで、馬路村は小さな村でありますので、そのスピード感が特徴とも言えます。

村のみんなが
知っている
村ニュース



赤子を
産んだ
とねー！

村の元気印の
ユズキが3カ月
程前に出産し、

産まれたムギちゃんを連れて散歩する姿を村の中でよく見かけるようになりました。ユズキ自身が元気に村の中を駆けまわっていた子ども時代が10年前。「10年前はつい最近」の、村民にとっては「あのユズキが」と赤子を抱く姿を見て驚くばかり。今でも子どものような無邪気な笑顔を見せる傍らお母さんの顔もしっかり覗かせてくれます。



編集後記

ゆずが在るのが当たり前の馬路村ではこの季節にゆずに携わらない人は、おそらく居りません。役場や農協などで働く人も、休日になると毎日ユズトリが待っており、家族総出でかかります。私もごくごくわずかの畑を借りており、まだ幼かった子ども達がだんだんと戦力となり始め、なんとなく家族総出の装いとなってきております。そうして子どもの頃からユズトリを覚え、磨き上げた生粋のユズっ子たちに素人の私が追い抜かれる日もそう遠くないかもしれません。

ゆずが次々と運ばれてくる集荷場は、久しく会っていない顔が出会い話こむ姿や、互いに収穫の労をねぎらう声を掛けあったり、受入れの農協職員と冗談を言いあったりと、さながら社交場ともなり、忙しいゆず収穫のひと息つく場でもあります。朝昼晩と一日の中で何回も出荷がある人、一人ですれたばあを夕方の一回出荷してくる人、皆それぞれの収穫があり、集荷場を後にする顔は皆清々しく見えます。忙しくはあるけれど、充実したゆずの日々を過ごしておるようです。



馬路村への道
高知から室戸方面に約51km 国道55号線まで太平洋沿いに進むと安田町へ入る。そして左に大まな川が見えて折角左へ曲り、安田川に沿ってさくさく北上する。県道12号線を通る車、20km 約30分。ゆずと馬路村に着きます。

プロダクト
日々馬路村
ホームページ www.yuzu.or.jp

馬路温泉
ツルツルのお湯です。
ゆづりすこしにまませんか。
宿泊やお問い合わせはこちら
0120-44-2026

朝から晩まで
パキンパキン
がらぼり
よります。



畑のプロ

高枝ハサミで収穫したゆずのへた摘み作業もスピードが命。お母ちゃんが慣れた手つきで次から次へとカゴを積み上げていきながら、ゆず玉の最終チェックもしていきます。真剣にゆずと向き合うまなざしと姿勢はプロそのもの。ハサミの音とラジオの声だけが広がる畑の中で、黙々と作業を続けるゆずの毎日です。



有機ゆず

村の自慢の有機ゆず。化学系の肥料や農薬を使用せず、えいゆずをつくるのはなかなか難しいですが、頑張りながら青果出荷も少しの量を出しています。『美しいゆず畑をつくり、きれいでおいしいゆずをつくらう』が馬路村ゆず部会の理念。ゴツゴツですが、自分たちが美しいと思えるゆずづくりをしています。



ナオさん

村一番の働き者は？と村人に問えば、おそらくナオさんの名前が一番多くあがるほど、ほとんど毎日畑に通い、ゆずに愛情をかけるナオさん。収穫の季節になるとより一層明るい笑顔を見せてくれ、忙しい中の癒しの存在でもあります。「ナオさんが頑張りゆうき私も頑張ろう」と思う人も多く、村のゆずを引っ張る大きな存在となっています。



保育園 御一行様

馬路保育所のお散歩コースには、もちろんゆず集荷場も含まれており、華麗にフォークリフトを操るゆず集荷係を、まるでヒーローを見るかのような目で、じっと見つめます。馬路の子どもの将来の夢の第一位は「ゆず集荷係」かもしれません。

